

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	斉藤 健	学校名	如水館バンコク高等部
教科（科目）・領域	公民（政治・経済）	対象学年（人数）	2年（9名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年11月27日（1時間）		

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：国際政治の動向、国際紛争と難民問題（全5時間）					
2. 実践する教科・領域： 公民（政治・経済）	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：					
<ul style="list-style-type: none"> かつての冷戦構造が、現在国際社会で起こっている紛争（テロや内戦を含む）のきっかけになっていることを理解する。 紛争はどのように発生するものであるか、その発生要因を、政治的要因・経済的要因・社会的文化的要因に大別し、これまで起こった紛争を類型化する。 ウクライナ問題が長期化している理由について、前時で学習した諸要因を踏まえ、ウクライナとロシアにおける歴史・地理的状況、経済などにも注目しながら、自分なりの意見を形成し、問題への関心を高める。 紛争やそれに付随して発生する難民問題などを解決するためのアイデアを共有し、平和（消極的平和）を実現していくために、共有したアイデアの具体化するには自分たちのどのような行動が現在そして将来求められるかについて考える。 					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	・授業で提示される5つのキーワード（NATO、クリミア半島、スラヴ民族、チェルノーゼム、ザポリージャ原発）を正しく理解し説明することができる。			
	②思考力、判断力、表現力等	・ウクライナ問題を、政治・経済・社会文化の3要因から分析し、最も大きな要因がどれであるか、その理由を文章化することができる。			
	③学びに向かう力	・ウクライナ問題を解決の方向へ導くためのアイデアを自分なりに考えることができる。			
6. 単元設定の理由・単元の意義（児童/生徒観、教材観、指導観）	<p>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</p> <p>第二次世界大戦以降、国際社会は国連を設立し、戦争の違法化や国際協力など、平和維持のための仕組みを整えてきた。しかし現代の国際社会では国境を越えた武力衝突、内戦、テロ、迫害など、様々な紛争（暴力）が続いている。そこで、これらの紛争（暴力）はなぜ起こるのか、そしてどうすれば解決できるのかを考えることで、世界で起こっている出来事に関心を持ってほしい。</p> <p>さらに、このような紛争（暴力）に関連した問題は、自分たちが住んでいるタイ国内でも無縁ではないことに気づき、身近なものであることに気づく機会にしたい。その上で、解決のアイデアを出し、それを共有することを通じて相互啓発しながら、現在および将来、自分たちが生活する国や地域で紛争（暴力）が起こった（起こっている）とき、多文化共生に向けて具体的な行動によって、平和を創造しようとする人間を目指してほしい。</p>				

【児童／生徒観】

生徒は5年以上タイに住んでいる者もいれば、1年未満の者もあり、海外における多文化共生の経験値に違いがある。

1学年1クラス9名のため、毎回の授業では全ての生徒が音読や発問に対する回答などで全体に対して声を発する機会を持つことができている。また、お互いの特徴が分かっているため、話し合いや協働的な活動もスムーズに行うことができる。

【教材観】

教科書第2章「現代の国際政治と日本」は、まず国際社会・国際法、国際連合の組織・役割について学習する構成となっている。それから今回扱う単元の「国際政治の動向」と「国際紛争と難民問題」が続く。

そのため、国際社会の特徴や仕組みについての学習を踏まえ、「国際政治の動向」では、今日の国際社会の課題である様々な紛争の内容を、冷戦など歴史的背景も確認しながら理解する。そして「国際紛争と難民問題」では、紛争の要因を政治・経済・社会文化などに分けて考えていくことで、国際紛争についての理解を深めていく。さらに、紛争によって引き起こされる難民問題についても考えることで、紛争が当事国だけの問題ではないと気づくことができる。

【指導観】

政治・経済の国際分野は、地球市民の育成にとって重要な単元である。しかし、教科書の構成は、歴史的事象、国際社会での取り組みなどが多く並べられているため、事実の羅列をインプットする活動に終始してしまう可能性がある。

そこで、ウクライナ問題について、ニュース動画・新聞記事・各種のデータなどを用いて、なぜ起こったのかを自分なりに考えるようにする。そうすることで、情報を単に受け取る形ではなくなり、問題に対する関心を高めることができると考える。また資料分析について、観点の異なる班に分けて活動することで、全体発表の際に、多面的な意見があることに気づきやすい環境にしたい。そうすることで、今後、多面的・客観的な姿勢で、ニュースなどの情報を受け取ることができ、メディアリテラシーの育成にもつながると考える。

7. 単元計画（全5時間）

時	ねらい	学習活動	資料など
1	・冷戦体制の確立から冷戦の終結までの歴史の流れを理解する。	・ワークシートを通じて、教科書の重要事項を確認する。 ・冷戦後の重要年表を作ってみる。	
2	・かつての冷戦構造が、現在起きている紛争（テロや内戦を含む）のきっかけになっていることを理解する。	・紛争が起きている場所を、白地図に書き込み気づいたことを共有する。 ・かつての紛争と現代の紛争を比較し、現代の紛争の特徴だと考えられるものを書き出す。	
3	・紛争はどのように発生するか、その要因を、政治的要因・経済的要因・社会的文化的要因に大別して分析する。	・ユーゴやパレスチナの事例から、どのような要因でこれらの紛争が起きているのかを考える。 ・近年、世界で発生している紛争を、要因別に分類する。	・JICA 動画：現場に見る人間の安全保障 ポスニア・ヘルツェゴビナ編

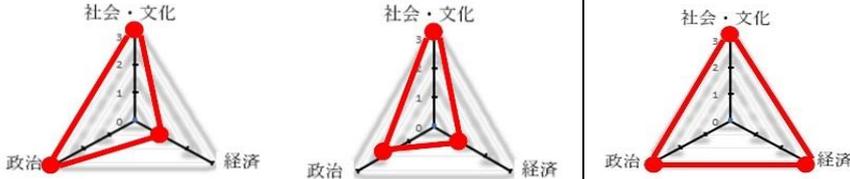
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> ウクライナ問題が長期化している理由について、前時で学習した諸要因を踏まえ、ウクライナとロシアにおける歴史・地理的状況、経済などにも注目しながら、自分なりの意見を形成し、問題への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「公民班」「歴史班」「地理班」に分かれ、ウクライナ問題が起こった要因を考える。 ウクライナ問題の要因をレーダーチャートにまとめる。 ウクライナ問題を解決に導くアイデアを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画 (NNN) 東京大学 2022 年入学式祝辞 外務省各国データ 新聞記事 (朝日新聞 デジタル)
5	<ul style="list-style-type: none"> ウクライナ問題の解決について考えることで、自分たちとの結びつきを強める。 自分たちが住んでいるタイにおける、紛争・難民問題について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の課題であった自分なりのアイデアを共有し、お互いに質問をする。 紛争やそれに付随して生まれる難民問題などを解決するためのアイデアを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> JICA 動画：授業で使える 10 分映像集 (難民)【映像 3】各国の難民受入れ状況

8. 本時の展開 (概略)

本時のねらい：ウクライナ問題が長期化している理由について、前時で学習した諸要因を踏まえ、ウクライナとロシアにおける歴史・地理的状況、経済などにも注目しながら、自分なりの意見を形成し、問題への関心を高める。合わせて、意見を共有することで、物事を多面的に考える姿勢も身につける。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (8分)	<p>1 今日の人物、本時のめあて・キーワードを黒板に提示する (めあて：ウクライナ問題を多面的に分析しよう)</p> <p>2 前時の課題であった Google フォームの回答を共有する。</p> <p>3 ウクライナ問題について、ニュース動画を見る。(約 5 分間)</p> <p>「(グテーレス事務総長) ウクライナへの攻撃を中止するように心の底から言いたい」</p> <p>「(ロシア国連大使) 特別作戦の目的はウクライナ政府から大量虐殺を受けている人々を守ることだ」</p> <p>「(グテーレス事務総長) 人道の名の下に今世最悪となる可能性のある戦争を欧州で始めるな」</p>	<p>・【資料 6】「ワークシート」を配布する。</p> <p>・ワークシートの該当箇所に各自記入するように伝える。</p>	<p>・「高等学校 改訂版 政治・経済」(第一学習社)</p> <p>・動画 (NNN)【国連】事務総長 涙浮かべ「戦争を始めるな」プーチン大統領に呼びかけ</p>
展開 1 (5分)	<p>4 2022 年の東京大学の祝辞の一節について、共感の度合いを 5 段階で示し、理由も考える。</p> <p>「この祝辞の下線部を読んでどのように感じましたか、5 段階で教えてください。そしてその理由も簡単に文にしましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 共感 1…ロシアが一方向的に侵攻しているから 共感 3…ロシアにも理由があるかもしれないが、武力を用いるのは違うと思うから 共感 5…ロシアにもロシアなりの理由があって行動したのだと思う 	<p>・【資料 1】「東京大学 2022 年入学式祝辞 (抜粋)」を配布する。</p> <p>・とても共感する場合は 5、全く共感しない場合は 1 をワークシートの「活動前」の部分に記入するように伝える。</p>	<p>・東京大学 2022 年入学式祝辞 (抜粋) …例えば「ロシア」という国を悪者にすることは簡単である。けれどもその国の正義がウクライナの正義とぶつかり合っているのだとしたら、それを止めるにはどうすればいいのか。なぜこのようなことが起こってしまっているのか。一方向的側からの意見に左右されてものの本質を見誤ってはいないだろうか？</p>

<p>展開2 (10分)</p>	<p>5 印刷資料を配布し、「公民班」「歴史班」「地理班」に分かれて、それぞれの班の観点で、ウクライナ問題が起こった要因を考える。</p> <p>「今から【資料2～5】を配布します。この資料について、3つの班に分かれて、ウクライナ問題がなぜ起こったのか要因を考えてみましょう」</p> <p>(公民班)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウクライナがNATOに加盟しようとしたから ・ロシアの国際的地位を回復したかった ・NATOの拡大に対する自衛だった <p>「NATOの拡大をロシアが約束違反と捉えている」「ウクライナがNATOへの加盟を表明した経緯」「ロシアが追い詰められていた」</p> <p>(歴史班)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起源が同じでかつての領土を取り戻したかった ・もともと同じスラヴ民族が多数の国だから一緒になりたかった ・クリミア併合のとき国際社会があまり反対なく支配できたため今回も成功すると考えたから <p>「年表ではクリミア併合のあと停戦合意が行われている」「ロシアがウクライナやクリミア半島にこだわる歴史的な要素に関する記述」</p> <p>「年表から両国が共通の起源を持っていることが読み取れる」</p> <p>(地理班)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力発電所を手に入れたかった ・小麦の生産地をもっと手に入れたかった ・親ロシア派地域やクリミアの支配を強めるため ・ウクライナ東部のロシア人を守るため <p>「ウクライナの民族構成で17%はロシア人」</p> <p>「両国とも主要農産物は小麦で、ウクライナにはチェルノーゼムと呼ばれる肥沃な土壌の穀倉地帯がある」</p> <p>「ロシアが原発を占拠したという記述」「地図からウクライナ東部は新ロシア派ロシア人も多く住んでいることがわかる」</p>	<p>・班分けについて、くじ引きなどできるだけ時間のかからない方法を用いる。</p> <p>・公民班は、ニュース記事【資料2】を中心に、ウクライナ問題が起こった要因を分析するように伝える。</p> <p>・歴史班は【資料2】・【資料3】の年表や世界史の教科書を中心に、ウクライナ問題が起こった要因を分析するように伝える。</p> <p>・地理班は【資料3】・【資料4】・【資料5】のデータや地図を中心に、ウクライナ問題が起こった要因を分析するように伝える。</p>	<p>「資料2参照」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝日新聞デジタル：かつての「兄弟国」なぜ攻撃？ プーチン氏が離したくないウクライナ(2022年2月24日) <p>「資料2参照」</p> <p>「資料3参照」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外務省ホームページ：各国データ(ロシアとウクライナ) <p>「資料3参照」</p> <p>「資料4・資料5参照」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産省：農林水産業概況(ロシアとウクライナ) <p>「資料2参照」</p>
<p>展開3 (8分)</p>	<p>6 各班で考えた要因について、全体で共有する。</p> <p>7 全体発表を踏まえ、ウクライナ問題の要因を</p>	<p>・レーダーチャート</p>	

	<p>各自でレーダーチャートにまとめ、理由も考える。 「ウクライナ問題がなぜ起こったのかについて、これまでに学習した政治・経済・社会文化の3つの要因から考えると、どれが最も関係していると思うか、理由も合わせて考えてみましょう。」 (政治を「3」と考えた生徒の理由) ・ロシアが NATO の東方拡大を脅威に感じて、これ以上拡大されないように考えたから ・この問題は 2014 年のクリミア併合とつながっていて、ロシアはウクライナへの影響力をさらに強めたかったから (文化を「3」と考えた生徒の理由) ・ロシアの起源はキエフ公国で、領土拡大し「強いロシア」を取り戻したかった ・ウクライナ東部に住んでいる親ロシア派の人々を守るため、ロシアに編入したかった (経済を「3」と考えた生徒の理由) ・ウクライナは穀倉地帯なので、そこを手に入れば、さらに輸出することができる ・ウクライナにあるたくさんの原子力発電所のエネルギーが欲しかったから</p>	<p>については、それぞれの軸で要因として大きく関係していると考えられる場合は3、あまり関係していないと考えられる場合は1にするように伝える。(レーダーチャートの軸は、政治・経済・社会文化の3つで、それぞれ3段階)</p>	
<p>展開4 (10分)</p>	<p>8 もう一つの動画を見る。(約5分) 「誰もが自国と世界平和を心配している。そしてみんなプーチンを支持している。」 「この戦争が戦うためのものだけで、全てがカッコ悪い」 「主権国家の領土に侵入している。」 「プーチンも理解できるし、ゼレンスキーも理解できる。結局、自分たちのベストを求めてしまったんだろう。」 「ヨーロッパ全土が今、アメリカの支配下にある」 9 ここまでの活動を踏まえて、もう一度、2022年の東京大学の祝辞の一節について、共感の度合いを5段階で示し、その理由を考える。 ・共感1…どんな理由であれ武力は許されない</p>	  	<p>・動画(テレ東 BIZ) プーチン大統領についてモスクワ市民の声…西側メディアへの不信が浮き彫りに。ウクライナ危機の背景 #56 (2022年3月9日)</p> 

	<ul style="list-style-type: none"> ・共感3…ロシア側にも理由があることが分かったから（でも武力は反対） ・共感5…それぞれの意見をしっかり聞いて話し合いによって解決することが必要だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・とても共感する場合は5、全く共感しない場合は1を、ワークシートの「活動後」の部分に記入するように伝える。 ・下書きをワークシートに行い、家庭学習の課題として Google フォームで提出するように伝える。 	
まとめ (4分)	<p>10 どうすればウクライナ問題を解決の方向へ導くことができるのか、自分なりの考えをまとめる。(課題の提出期限は次回の授業まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NATO ともう一度、話し合いの場を設けた方がよい ・ロシアとウクライナとの間に入って仲介ができるような中立的な国を含めた会議を定期的に行い、コミュニケーションを深める ・まずはロシアが軟化してくれるように、中国などがロシアと交渉する ・ロシアが撤退する条件は何なのか、明確に表明してもらい、それを含めて国連で話し合う 		
<p>9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウクライナ問題の要因をレーダーチャートにまとめ、理由を文章化できたか（ワークシート） ・どのような解決のアイデアがあるか自分なりに考えることができたか（Google フォーム） 			
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートでキーワードを確認する。 ・ニュース動画とニュース記事、外務省や農林水産省のデータ、世界史の教科書など複数の資料を活用しながら、ウクライナ問題の複雑さを理解する。 ・ウクライナ問題を解決の方向に導くためのアイデアを文章でまとめ、共有する。 ・授業後の振り返りを Google フォームのアンケート機能で提出する。 			
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案を共有し、校内での授業見学の声かけをすることで、国際理解教育の関心度を高める。 			

【自己評価】

12. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちはウクライナ問題には関心があったものの、複数の資料の中から情報を抽出する活動には慣れていなかったため、こちらの想定よりも資料読解に多くの時間がかかり、「個人活動」と「グループ活動+全体共有」の時間配分に苦労した。 ・多様な意見が出てくるようにしたいという思いから、資料の情報量を多めにした結果、地理班・歴史班・公民班それぞれのグループでの話し合いの時点で、効果的な情報共有ができておらず、教員のファシリテート以上の関わりが必要になったため、それぞれのグループ員になる形で話し合いに参加せざるを得なかった。 ・生徒がそれぞれ理由を書く時間が十分にとれなくなり、最後のまとめの解決策と合わせて、次回の授業までに記入する形になった。
-----------	--

13. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を見ながら気になった部分について、メモするようなワークシート構成だったが、動画視聴とメモを同時に行うのではなく、動画を見終わったところで、印象に残っている内容を書き留めたり、他の生徒と意見交換したりすることで、動画の内容に対する理解を深めることができたと思う。 ・資料を数回に分けて事前に提示しておき、それぞれ家庭学習として読み込み、気になった部分、大切だと思った部分などに印をつけたり、メモとして取りだしたりした上で、その読解を経た資料を持ち寄る形の方が、共有や話し合いを落ち着いておこなうことができたと思う。 ・同一資料であっても、地理班・歴史班・公民班という形で、注目する視点を変えてみると、気づくポイントが変わるということも体感してほしかったが、全体共有の際、異なる班による視点の違い（グループレベルでの違い）によるものなのか、単純に自分と他者の視点の違い（個人レベルでの違い）によるものなのかは明確にならなかった。そこで、地理班は地図・統計資料・各国データ、歴史班は年表と世界史の教科書の記述、公民班はニュース記事というように、各班で読解する資料を分けた方が、生徒たちも読解の狙いが明確になったと思う。
14. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・ウクライナ問題に対する自分なりの解決方法をグループフォームに記入して提出する授業後の課題を提示したが、普段、グループフォームでの課題への取り組みが積極的ではない生徒も、提出期限を守っての提出だけでなく、しっかりと文章も書いていた。ここから、授業が興味・関心を高める契機となり、課題への取り組みの積極性にもつながったと考えられる。 ・定期考査では、今回の授業で扱った「ウクライナ問題」のほか、「パレスチナ問題」、「難民問題」というトピックをそれぞれ同一配点（10点）、同一形式（空所補充＋一問一答）で出題した。グループワークの展開で学習したウクライナ問題に対して、パレスチナ問題と難民問題は講義中心の展開であった。その結果、それぞれの大問別平均点は、ウクライナ問題が 8.5 点、パレスチナ問題が 7.0 点、難民問題が 5.8 点となり、グループワークでの学びは、知識の定着率にも良い影響を与え、成果があったと考えられる。
15. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	<ul style="list-style-type: none"> ・【東大入学式の式辞に対する共感度合いと理由】 （生徒 A）前半の共感：5 → 後半の共感：5 前半の理由…メディアでもロシアが悪であるのが前提のように見えるから 後半の理由…ロシアにもロシアなりの理由があることが分かると、どちらか一方が悪いとは言えないと思ったから （生徒 B）前半の共感：3 → 後半の共感：5 前半の理由…どちらかを悪と決めつけている雰囲気があるから 後半の理由…ロシアが悪いと思っていたが、資料などで色々な理由が分かったから （生徒 C）前半の共感：4 → 後半の共感：3 前半の理由…何も知らない人たちから見ると、ロシアが一方向的に攻撃しているから悪者になっているかもしれないけれど、誰が正解か分からないから 後半の理由…ロシアもウクライナも自分たちに都合が良いように話していて、どちらも正解とは言えないから

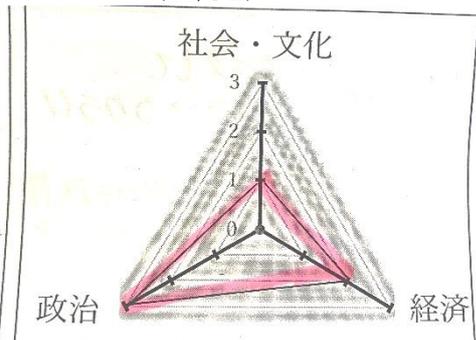
(生徒 D) 前半の共感：2 → 後半の共感：2

前半の理由…ロシアが悪ではないというのは分からなくもないが、やっていることは人として、そして社会的に悪と呼ばれても仕方がないから

後半の理由…誰が何と言おうが、やっていることは悪であることには変わりはない。どちらも悪かもしれないが、ロシアがしていることがウクライナ以上に非道なものには変わりはないから。

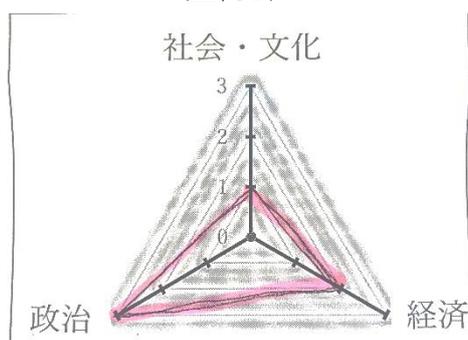
・【紛争の要因に関するレーダーチャートと理由】

(生徒 E)



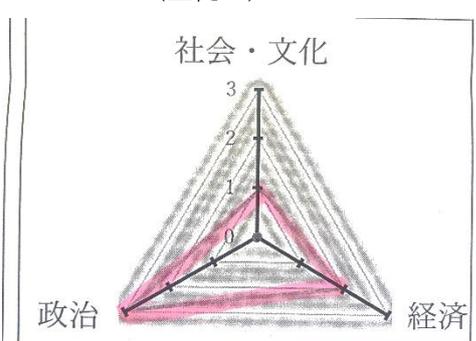
上のようなレーダーチャートにした理由
昔のこともあったけれど今は今だから今起こる問題に対して、対策したと思ってるから。

(生徒 F)



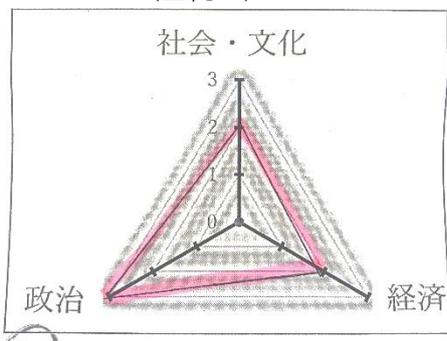
上のようなレーダーチャートにした理由
NATOとロシアの問題が、今回一番大事に開かれていると感じたから。

(生徒 G)



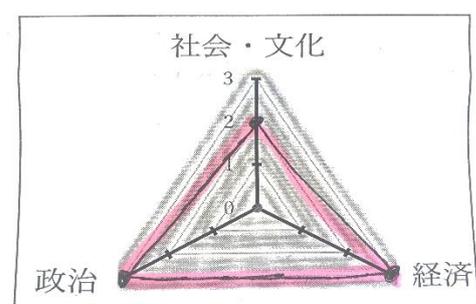
上のようなレーダーチャートにした理由
支配する、されるなどは政治だと思い
政治的要素が一番大きいように思えたから。

(生徒 H)



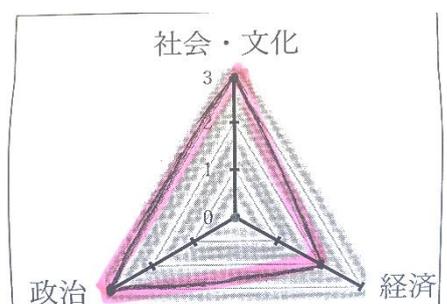
上のようなレーダーチャートにした理由
ウクライナ問題で一番の理由は NATO加盟を拒否したことで政治を争点とした。その他の理由も大きいから、政治的要素が一番大きいように思えたから、2にした。

(生徒 I)



上のようなレーダーチャートにした理由
貿易の輸出入が深く関係していると思ってるから、歴史の面でも旧ソ連から独立した事から見て、思ってるから。

(生徒 J)



上のようなレーダーチャートにした理由
ロシアが強いという理由が大きいから、アメリカ側に行けばいいという理由の方が少ないから。

	<p>・【授業の最後に投げかけたウクライナ問題の解決策】</p> <p>(生徒) 今回の問題で自分が思ったことはロシア側もウクライナ側も互いの意見を尊重してないように思えた。確かに世間的に非難されているのはロシアで戦争を仕掛けているのは悪いようにも思えるが、欧米諸国が敵対することへの正当防衛という事も理解できる。そこで現実的には難しいかもしれないがウクライナ・ロシア・欧米諸国など問題となっている国家間で話し合いをすることが大切なように感じた。</p> <p>(生徒) ウクライナの戦争を止めるためにはプーチンさんを止めるべきだと思う、今もニュースではたくさん戦争の抗議の映像が流れているけれどやはりそれほど国内でも反感があるのだと感じる。だから国の上の人が頑張ってプーチンさんを弾劾させることがいいと思う。(そのより上からの圧力が怖いけれど…)</p> <p>(生徒) 授業前は、ニュースでしか聞いたことがなくて戦争が始まった理由も詳しくは分かっていなかったけど、授業を通して、ウクライナ側もロシア側も自分達がいい方じゃなくてお互いの国、世界中の人たちを思って物事を決めた方がいいと思いました。出来るかは分からないけど、国民の意見もしっかり聞くべきだと思います。</p> <p>(生徒) NATO に加盟していない国を中立として会談した方がよいと思う。NATO に加盟している国が会談で出たりするからロシア側の NATO に対する感情を抑え、第三者からの目線で話すのがよいと思う。今まで気づかなかったことも第三者からの目線なら気づいたり、それに関する解決策等も見つかったりすると思うが、これは、相手によっては不快に思われるからこの方法で解決するのは限られている。</p>
16. 授業者による自由記述	<p>「ウクライナ問題はなぜ起こったと考えられるのか」について、3つのグループ(地理班・歴史班・公民班)に分けて、多くの資料から紛争発生の要因を探することで、紛争は一つの要因で起こっているものではないと気づいてもらうのが一つの狙いであった。注目する資料を分けたことで、「異なる視点」から要因を取り出す形にはなっていたが、それは「資料の読解の仕方の違い」であり、「物事を多面的に考える姿勢」に繋がったと考えられる。ただ、「6. 単元設定の理由・単元の意義」の【指導観】の中で触れた「多面的・客観的な姿勢で、ニュースなどの情報を受け取ることができ、メディアリテラシーの育成にもつながる・・・」という部分に注目すると、今回の活動では「客観的」「メディアリテラシー」については、後半で視聴した動画で様々な意見があることを示したに留まってしまった感がある。今回取り組んだ、資料を読解する視点を分けて「多面的」に考える活動だけでも時間がかかったので、これと併せて「客観的」「メディアリテラシー」に関わる活動を行うためには、「13. 改善点」で触れたように、資料を前もって読解する必要があると思われる。そして客観的やメディアリテラシーについて考えるため、例えば、あなたがプーチンだったら、あなたがゼレンスキーだったら、あなたが東部の親ロシア派住民だったら、あなたが東部の反ロシア派住民だったらというように、ロールプレイなど「異なる立場」で取り組むと効果的だと感じている。</p>

参考資料：動画 (NNN) 【国連】事務総長 涙浮かべ「戦争を始めるな」プーチン大統領に呼びかけ、東京大学 2022 年入学式祝辞、外務省各国データ (ロシアとウクライナ)、朝日新聞デジタル：かつての「兄弟国」なぜ攻撃？ プーチン氏が離したくないウクライナ (2022 年 2 月 24 日)、動画 (テレ東 BIZ) プーチン大統領についてモスクワ市民の声…西側メディアへの不信が浮き彫りに。ウクライナ危機の背景【欧州沸騰現場】#56 (2022 年 3 月 9 日)

多くの困難を乗り越えて、この度の東京大学へのご入学、誠におめでとうございます。この約 2 年の間、コロナという未知のウイルスによって皆さんの日常が昨日までとは全く違う現実を余儀なくされることになりました。そんな中で今日という日を迎えられること、大変悦ばしい時間を今、この瞬間、噛み締めておられるのではないのでしょうか？

今日は、手放しでその喜びを全身に受けて、お過ごしください。(中略)

先ごろ、世界遺産の金峯山寺というお寺の管長様と対話する機会を得ました。本堂蔵王堂には、山から伐ってきたままの大きな樹の柱が御堂を支えています。それらの樹は全て違う種類で、それはまるで森の中に自らが存在しているかのような心地になるとのことでした。なるほどその存在を確かめてみると、それぞれの柱がそれぞれの役割でそこにあって、どれひとつとして何かと比べられることなく、そこにきちんと自らの役割を全うしているようです。この世界観、精神性が今の自分に大きな希望を与えました。元来、宗教や教育の現場には、こういった思想があり、それを次の世代の人たちに伝える大切な役割があるのでしょうか。あなたが今日ここにあって、明日から、かの大木の柱のように、しっかりと何かを支え、しっかりと何かであり続ける人であってほしいと願います。また、この管長さんが蔵王堂を去る間にそつとつぶやいた言葉を私は逃しませんでした。

「僕は、この中であれらの国の名前を言わへんようにしとんや」

金峯山寺には役行者様が鬼を諭して弟子にし、その後も大峰の深い山を共に修行をして歩いた歴史が残っています。節分には「福はウチ、鬼もウチ」という掛け声で、鬼を外へ追いやらないのです。この考え方を千年以上続けている吉野の山深い里の人々の精神性に改めて敬意を抱いています。

管長様にこの言葉の真意を問うた訳ではないので、これは私の感じ方に過ぎないと思って聞いてください。管長様の言わんとすることは、こういうことではないのでしょうか？例えば「ロシア」という国を悪者にすることは簡単である。けれどもその国の正義がウクライナの正義とぶつかり合っているのだとしたら、それを止めるにはどうすればいいのか。なぜこのようなことが起こってしまっているのか。一方的な側からの意見に左右されてものの本質を見誤ってはいないだろうか？誤解を恐れずに言うと「悪」を存在させることで、私は安心していないだろうか？人間は弱い生き物です。だからこそ、つながりあって、とある国家に属してその中で生かされているともいえます。そつして自分たちの国がどこかの国を侵攻する可能性があるということを自覚しておく必要があるのです。そつすることで、自らの中に自制心を持って、それを拒否することを選択したいと思います。

私があなたと同じ歳の頃、養母である「おばあちゃん」を撮っているとどうしようもなく彼女に触れてみたくなりました。8 ミリをまわしながら私は彼女の頬に触れてみました。その時、私の中に 2 人の自分が存在していました。冷静に世界を見つめる客観的な私と、おばあちゃんの肌触りを直接感じている主観的な私です。このふたつの存在、主観と客観を持つことこそが、表現者たる資質を獲得することに他ならないと感じていました。その感覚を手に入れた私は、そのあとファインダーを覗いてフィルムカメラのシャッターを押しながら見えるものの固有名詞を叫び始めます。「空」「雲」「犬」「えんどう豆」「おばあちゃん！」こうして私は世界を存在させてゆきました。名前をつけるということは、世界にそれらを存在させるということだったので。あれから 30 年近くが過ぎ、今日、あなたとの時間を共有している自分がここにいます。そして「河瀬直美」という名前を持って、あなたに認識してもらっているなら幸いです。

さて、あなたが今いる場所にはどんな光景が見られますか？ あなたのまなざしは、何を見て、何を描いてゆくのでしょうか。その未来は明るいですか？

この自由な学びの場で存分に生きてください。これからたくさんの人に出会い、たくさんの本を読み、様々なことに挑戦していくのでしょうか。見た景色、聞こえた音、匂い、味、肌触り、そこから生まれた感情を大切に、どれだけ小さかろうとあなた自身の想像力をもって真理を見つけるたった一つの窓の存在を確かめてください。どこまでも美しいこの世界を自由に生きることの苦悩と魅力を存分に楽しんでください。

この度はご入学おめでとうございます。

資料 2 プーチン氏「レッドラインを越えた」 NATO へ根深い恨み感情

2022年6月30日 18時00分 朝日新聞デジタル

北大西洋条約機構（NATO）が29日、一時は「戦略的パートナー」と位置づけたロシアを「最大かつ直接的な脅威だ」と見なす方針に転換した。だが、ロシアのプーチン大統領は以前から、米国とNATOへの不信感をあらわにしてきた。「恨み」とも呼べるほどの感情が、ウクライナ侵攻の背景にはある。

「北大西洋条約機構（NATO）は冷戦時代の遺物だ。政治同盟に変わったと言われてきたが、軍事機構としての新たな力を求めていた。我々には新しいニュースはない」

ロシアのプーチン大統領は29日、NATOがロシアを「脅威」と定義したことに関連し、そう述べてNATOを批判した。

「東方拡大はしない約束、だまされた」

加盟が認められた北欧のフィンランドとスウェーデンについては、「ウクライナのような問題はなく、NATO加盟についても心配はない」と述べつつ、「部隊や兵器を配備した場合、対抗措置を取る必要がある」と牽制（けんせい）した。

プーチン氏はこれまで度々、NATOへの不信感を示してきた。

「現代の論理に合わない米国やNATOの行動がある。新しい軍事インフラの配備を含むNATOの拡大と欧州にミサイル防衛システムをつくる計画だ」

プーチン氏は2012年2月、復帰を目指して立候補した大統領選を前に論文を発表し、米国やNATOへの強い不信感を示した。

10年末から中東各国で民主化運動が起こった「アラブの春」についても、「内部紛争の一方を支援する外部の介入が否定的な色彩を与えた」と欧米を念頭に批判。「外部の支援で国の状況を不安定化させる『偽NPO』などの活動は許されない」と主張した。

ウクライナ侵攻をめぐってプーチン氏が繰り返す欧米批判と、ほぼ内容は重なる。

この論文の2年前、NATOはポルトガルで開いた首脳会議に、ロシアのメドベージェフ大統領（当時）を招待。ロシアを「最大のパートナー」と位置づけ、テロやサイバー攻撃などを新たな脅威に掲げた。

08年、ロシアのジョージア（グルジア）侵攻で冷え込んだ欧米との関係が改善。ロシアは主要8カ国（G8）の一員にもなっており、欧米との協力関係が発展するという期待が高まった。

だが、プーチン氏がNATOへの警戒心を解くことはなかった。国内で反政権派への締め付けを強めたこともあり、欧米との関係は再び悪化していった。

プーチン氏がNATOへの強い不信感を表明したのは07年だった。世界の首脳や閣僚らが集まり、外交・安全保障の課題を話し合う「ミュンヘン安全保障会議」での演説で、「NATOの拡大が東西間の相互信頼を失わせている」と批判した。

ロシアは、旧ソ連陣営が崩壊する過程の90年ごろ、「欧米がNATOの東方拡大はしないと約束した」と主張している。だが、NATOは99年以降、ポーランドやバルト諸国など旧ソ連陣営の国々や旧ソ連の構成国を迎えた。

ロシアを脅威と感じる国々が自国を守る「傘」を求めた結果だったが、ロシアは自らの国境に迫る脅威と捉えた。さらにNATOは08年、ウクライナとジョージアを「将来の加盟国」と認めた。

99年のユーゴ空爆のほか、イラク戦争やアフガニスタン戦争などでの米国やNATOの姿勢は、ロシアには独善的に映った。ロシアが冷戦の「敗者」として扱われることへの不満も募った。

しかも、旧ソ連構成国のジョージアやウクライナ、キルギスで、親欧米勢力が政権を倒す「カラー革命」が起きた。自らの勢力圏とみなす地域で欧米の影響力が強まれば、ロシアへの浸透を許しかねないと警戒感を強めた。

2014年2月、ロシアが「兄弟国」と呼ぶウクライナで親ロシアの政権が倒れて親欧米の政権が誕生すると、同月末にはロシア軍の部隊を派遣し、ウクライナ南部クリミア半島をまたたく間に占領した。月内に「住民投票」で承認された形を整え、一気にロシアとの併合まで突き進んだ。

非正規の戦闘員やサイバー攻撃を絡めた「ハイブリッド戦争」は、ウクライナ軍に抵抗する暇を与えないほど迅速で、米国やNATOへの対抗策を入念に研究した結果だとみられる。

今年2月24日、プーチン氏はウクライナ侵攻を発表したテレビ演説で、「（欧米は）NATOを1インチも東方に拡大しないと約束したが、だまされた」と、改めてNATOへの強い不信感を表明した。

さらに第2次世界大戦でナチス・ドイツに宣戦布告なしで攻撃されたことを挙げ、「2度目はない。そんな失敗は許されない」と侵攻を正当化して、こう国民に訴えた。

「我々の歴史的な土地に『反ロシア』がつくられている。これまで何度も言ってきたレッドラインを米国と同盟国は越えたのだ」

【詳細】ロシア ウクライナに軍事侵攻(25日午前2時～)

2022年2月26日 5時53分 NHK オンラインニュース

ロシアは24日、ウクライナに対する軍事侵攻に踏み切り、ロシア国防省はこれまでに11の空港を含むウクライナ軍の80以上の施設を攻撃したと発表しました。プーチン大統領は「ほかに選択肢はなかった」と述べ、軍事侵攻を正当化しました。

ロシア ウクライナ軍事侵攻 “80以上の施設攻撃”ロシア国防省

ロシアによる軍事侵攻は24日、ウクライナの各地で始まり、ロシア国防省はこれまでに11の空港を含むウクライナ軍の83の地上施設を攻撃したと発表しました。ロシア国防省のコナシェンコフ報道官は、あくまでも軍事施設を対象にした攻撃であり、民間人に対する脅威はないと主張しました。

日本時間 2:30 すぎ プーチン大統領 パキスタン カーン首相と会談

ロシアのプーチン大統領はウクライナへの軍事侵攻を開始したあとの24日、モスクワを訪問中のパキスタンのカーン首相と会談しました。パキスタン首相府によりますと、この会談は、アフガニスタンの人道支援などを話し合うためもともと予定されていたものだということです。このなかで、カーン首相はウクライナの情勢について、遺憾の意を表し、外交によって軍事衝突を回避するよう望むとプーチン大統領に直接伝えたということです。会談でのプーチン大統領の発言はこれまでのところ、伝えられていません。

ゼレンスキー大統領「新たな鉄のカーテンが下りた」

ウクライナのゼレンスキー大統領は24日、国民に向けて演説を行いました。この中で「私たちがいま耳にしているのは、ロケットの爆発音や戦闘の音、軍用機のごう音だけではない。新たな鉄のカーテンが下りてロシアを文明世界から切り離す音だ。このカーテンを私たちの国に下ろすのではなくロシア側にとどめなければならない」と述べ、東西冷戦時の「鉄のカーテン」という表現を用いてロシアを非難しました。

日本時間 3:15 ウクライナと国境接するポーランドに避難の人々

ウクライナと国境を接するポーランドには車や列車などでウクライナの人々が逃れ始めています。このうちポーランド南東部の町メディカにある国境では、24日、仕事などでの通常の往来に加え、ウクライナ側から歩いて国境を渡る人たちが目立ち、ベビーカーを押す母親や、スーツケースを引く家族の姿が見られました。

ウクライナ 被害状況発表

ウクライナ大統領府の補佐官は24日の会見で、ロシア軍の侵攻開始以来、ウクライナ軍の兵士40人以上が死亡し、数十人が負傷したと発表しました。また、ロイター通信は、地元当局の話として、黒海沿岸の港湾都市オデッサ周辺では、ミサイル攻撃によって市民など少なくとも18人が死亡したと伝えています。さらに、ウクライナ警察の発表として24日にロシア側から203回にわたって攻撃を受け、領土のほぼ全域で戦闘が繰り広げられていると伝えています。

ドイツ ショルツ首相「これはプーチンの戦争」

ドイツのショルツ首相は 24 日、国民に向けてテレビ演説を行いました。

この中で、ウクライナの人々との連帯を強調したうえで「プーチン大統領はあらゆる警告や外交的解決に向けた努力に取り合わなかった。彼ひとりがこの戦争を決断し、全面的に責任を負う。これはプーチンの戦争だ」と述べ、プーチン大統領を厳しく非難しました。

ロシア プーチン大統領「ほかに選択肢はなかった」

ロシアは、24 日、ウクライナに対する軍事侵攻に踏み切り、ロシア国防省は、これまでに 11 の空港を含むウクライナ軍の 80 以上の施設を攻撃したと発表しました。プーチン大統領は「ほかに選択肢はなかった」と述べ、軍事侵攻を正当化しました。

ロシア各地で反戦デモ 拘束は 1000 人超える

ロシアのウクライナに対する軍事侵攻に反対するデモはロシア国内でも行われ、首都モスクワでは現地時間の 24 日に、多くの市民が集まって「戦争はいらない」などと声を上げながら、デモ行進しました。フランスの AFP 通信によりますと、このデモにはおよそ 2000 人が参加したということで、参加した女性は「対立はどちらの側からも暴力的な行為なしに平和的に解決されなければなりません」と話していました。参加した人たちは静かに行進を続けていましたが、一部の人々は警察に拘束され、次々に車両に乗せられていました。ロシアではこの日、モスクワのほか、第 2 の都市サンクトペテルブルクなど各地で抗議デモが行われましたが、人権監視団体によりますと、警察に拘束された人は国内の 51 の都市で合わせておよそ 1400 人にのぼるとのことです。

アメリカ バイデン大統領「プーチン大統領は侵略者だ」

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を受け、アメリカのバイデン大統領は演説で「プーチン大統領は侵略者だ」と述べて強く非難するとともに、ロシア最大の金融機関の資産凍結や輸出規制の強化など、日本を含む同盟国などと足並みをそろえて大規模な制裁で応じると明らかにしました。

日本時間 8:20 ごろ 岸田首相会見「厳しく非難」

岸田総理大臣は 25 日朝、記者会見を行い、「国際社会の懸命の努力にもかかわらず行われた今回のロシア軍によるウクライナへの侵攻は、力による一方的な現状変更の試みであり、ウクライナの主権と領土の一体性を侵害する明白な国際法違反だ。国際秩序の根幹を揺るがす行為として断じて許容できず、厳しく非難する」と述べました。

その上で「わが国の安全保障の観点からも決して看過できない。G7 をはじめとする国際社会と緊密に連携し、ロシアに対して、軍の即時撤収、国際法の順守を強く求める」と述べました。

そして、追加の制裁措置として、資産凍結とビザの発給停止によるロシアの個人・団体などへの制裁、ロシアの金融機関を対象とする資産凍結、ロシアの軍事関連団体に対する輸出や半導体などの輸出に対する規制を行う考えを示しました。

また、岸田総理大臣は、ウクライナに在留する日本人およそ 120 人の安全確保に向け、最大限努力すると強調し、西部のリビウに設けた臨時の連絡事務所で、隣国のポーランドに陸路で退避する場合の支援などを行うほか、ポーランドから他国に移動するためのチャーター機をすでに手配していると説明しました。

日本時間 8:40 ごろ 鈴木財務大臣 ロシア 3 銀行の資産凍結を発表

ロシア軍によるウクライナへの侵攻を受けて、鈴木財務大臣は、25 日の閣議のあとの記者会見で、追加の経済・金融制裁としてロシアの 3 つの銀行を対象に資産凍結を行う方針を明らかにしました。対象となる 3 行は、▽開発対外経済銀行と▽プロムスビヤズ・バンク▽バンク・ロシヤです。

国連事務総長 “ウクライナに緊急人道支援”

国連のグテーレス事務総長は 24 日、記者会見し、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻について「間違っている。国連憲章に反している。受け入れられない」と述べ、ロシアのプーチン大統領に対して軍事行動を中止し軍を直ちに撤退させるよう求めました。その上で「罪のない人たちが常に最も大きな代償を払うことになる。民間人の保護を最優先にしなければならない」と述べ、国連の基金から 2000 万ドル、日本円にして 23 億円あまりを拠出して、ウクライナに緊急人道支援を行うことを明らかにしました。

ウクライナ首相 “ロシア軍 チェルノブイリ原発を占拠”

ウクライナのシュミハリ首相は 24 日、北部にあるチェルノブイリ原子力発電所が戦闘の末、ロシア軍に占拠されたと明らかにしました。AP 通信の映像では、所属不明の軍用車両とみられる複数の車両が原子力発電所の敷地内に入り込んでいる様子が確認できます。チェルノブイリ原子力発電所では旧ソビエト時代の 1986 年、運転中の原子炉で爆発が起こり、史上最悪の事故とされています。シュミハリ首相は、戦闘による犠牲者はいなかったとしていますが、敷地内にある放射性廃棄物の貯蔵施設の状態は分かっていません。

ウクライナ大統領 “137 人が死亡”

ウクライナのゼレンスキー大統領は日本時間の 25 日、国民向けのビデオメッセージをフェイスブックに投稿しました。この中で「悲しいことに 137 人の英雄たち、市民たちを失い、316 人がけがをした。ウクライナのために命をささげた人たちは永遠に記憶される」とした上で、兵士だけでなく民間人にも犠牲者が出ていることを明らかにし、沈痛な表情で黙とうをささげました。

日本時間 10:00 ウクライナの駐日大使「最悪のシナリオも想定」

ロシアがウクライナに対する軍事侵攻に踏み切ったことを受けて、ウクライナのホルスンスキー駐日大使が都内で会見を開き「最悪のシナリオも想定しなければならない」と強い危機感を示すとともに、日本も国際社会と足並みをそろえ、ロシアへの制裁を強化するよう求めました。

日本時間 11:00 すぎ 「首都キエフで複数の爆発音」 現地メディア

ウクライナ内務省の関係者がフェイスブックに投稿した内容によりますと、ウクライナ軍がキエフ上空を飛行するロシア軍の軍用機を撃墜させ爆発が起きたということです。キエフの中心部にある 9 階建ての集合住宅が炎上し、ロイター通信によりますと少なくとも 8 人がけがをしたということです。現場の集合住宅を撮影した映像では、広い範囲が焼け焦げ、壁などがめちゃくちゃに壊れているほか、屋内の一部では火が燃え続け消火活動が行われています。また、屋外では破片が散乱している様子が確認できます。集合住宅で暮らす女性は「私は眠っていましたが、すごい爆発音がして、廊下に投げ出されました。何が起こったのかわかりませんでした」と話し女性の娘は泣きながら後かたづけに追われていました。ウクライナのゼレンスキー大統領は演説で、「ロシア軍は、民間の施設は標的ではないと言っているがうそだ。彼らは攻撃する場所を区別していない」とロシア側を非難しました。

アメリカ 国防総省高官「大規模な軍事侵攻の初期段階にある」

アメリカ国防総省の高官は24日、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の状況について分析した結果を明らかにしました。それによりますとロシア軍は複数の段階に分けて展開する可能性があり、現在は「大規模な軍事侵攻の初期段階にある」と分析しています。

ウクライナ大統領「ロシア軍はミサイル攻撃を続けている」

ウクライナのゼレンスキー大統領は25日、ビデオメッセージをフェイスブックに投稿し、このなかで「25日午前4時、ロシア軍は、ウクライナ領内へのミサイル攻撃を続けている。攻撃の目的は、ウクライナ市民や社会全体に圧力をかけることだ」と述べました。攻撃が行われた地域や規模などは明らかにしていません。また、ウクライナのクレバ外相もツイッターで、「ロシア軍によるキエフへの恐ろしいロケット攻撃だ。ウクライナは悪を打ち負かす。プーチンを止めよう」と投稿しました。

ウクライナ内務省高官 “ロシア戦車部隊 首都キエフへ”

ウクライナ内務省の高官は25日、SNSに「きょうが最も厳しい日になる」と投稿し、ロシアの戦車部隊が北部から首都キエフに向かっていて、対戦車ミサイル「ジャベリン」などで応戦することを明らかにしました。また、ウクライナの国防次官は地元メディアに対してロシア軍がウクライナ軍の戦車を奪いキエフに向かっていると伝えました。ウクライナ軍の参謀本部は地元メディアに対してロシア軍の侵攻を止めるためウクライナ軍がキエフの北西部にある3つの橋を爆破したことを明らかにするなどキエフ周辺ではロシア軍とウクライナ軍による戦闘が続いているとみられます。

UNHCR “避難余儀なくされた市民 10万人超と推計”

UNHCR＝国連難民高等弁務官事務所は、ロシアによる軍事侵攻を受けているウクライナで、安全を確保するため、すでに住居を離れて避難を余儀なくされた市民が10万人を超えるという推計を明らかにしました。数千人はモルドバやルーマニアなどの近隣の国に逃れたとみられるとしています。その上で近隣の国々に対し、国境を開放して避難してきた人たちを受け入れるよう呼びかけています。

日本時間 14:00 ロシア駐日大使「軍事作戦 都市部には行われず」

ロシアのガルージン大使は25日午後、都内で会見を開き、「空爆などの軍事作戦はウクライナの都市部に対しては一切、行われていない。軍の施設などが対象で、ウクライナ国民に直接、影響を及ぼすことはない」と述べ、ロシア軍による攻撃は正当だと主張しました。

16:00 米駐日大使が東京で記者会見「許すことできない侵攻」

日本に駐在するアメリカのエマニュエル大使が都内の日本外国特派員協会で記者会見を開き「われわれはロシアのウクライナに対する不当で、許すことのできない侵攻を目の当たりにした。ロシア大統領府がなんといおうと、侵攻を正当化することはできない」とロシアを厳しく批判しました。そして「プーチン大統領は核兵器の使用をもって世界を脅している。われわれはこのような攻撃的な振る舞いに対して、何もしないわけにはいかない」と述べました。そのうえで「われわれはロシアが力行使することや、平和と繁栄をもたらす共通の価値観などを軽視することをやめさせる」として国際社会が一体となって取り組む必要があると訴えました。また、日本政府の対応については「制裁を発表した岸田総理大臣の強く揺るぎないリーダーシップを歓迎し、深く感謝する」として評価しました。

日本時間 17:30 ごろ ロシア国防省報道官「118 の軍事施設を破壊」

ロシア国防省のコナシェンコフ報道官は、25 日、日本時間の午後 5 時半頃、ビデオで声明を発表し、これまでにウクライナ国内の 11 か所の軍用の空港を含む 118 の軍事施設を破壊したとしています。さらに、ウクライナ軍の戦闘機と無人機あわせて 10 機のほか、戦車など装甲車両 18 台を破壊したなどとこれまでの戦況を明らかにしました。

中国外務省の報道官 “話し合いによる解決を模索すべき”

中国外務省の汪文斌報道官は 25 日の記者会見で「ウクライナ問題の政治的解決の扉は完全に閉ざされてはいない。中国は引き続き、みずからの方法で話し合いによる和解を促し、外交による解決を推し進めるための努力を歓迎し奨励していく」と述べ、欧米などが制裁措置を強化するなか、あくまで話し合いによる解決を模索すべきだという姿勢を示しました。

ロシア国防省の報道官 “チェルノブイリ原発と周囲 完全に掌握”

ロシア国防省のコナシェンコフ報道官は 25 日、軍の空挺部隊がウクライナのチェルノブイリ原子力発電所とその周囲を完全に掌握したと明らかにしました。これに関連してウクライナの原子力規制当局は 25 日午前 8 時、日本時間のきょう午後 3 時、「立ち入り禁止区域のモニタリングシステムによるとかなりの数の観測地点で放射線量のレベルに異常がみられる」と発表しました。一方、ロシア側は周辺の放射線量のレベルに異常は確認されていないとしています。そのうえでウクライナ側と共同で警備にあたることで合意したなどと主張しています。

ポーランド国境 ウクライナから逃れてくる人たち増える

ロシア軍による侵攻開始から一夜明けた 25 日、ポーランド南東部の国境の町メディカではウクライナから逃れてくる人たちが増えています。現地では、子どもを連れた家族の姿が目立ち、一様に不安そうな表情をうかべていました。

日本時間 18:00 ウクライナ内務省高官 “ロシア軍工作員が侵入”

ウクライナ内務省の高官は自身のフェイスブックで、25 日、日本時間の午後 6 時ごろ、首都キエフ市の北部にあるオボロン地区に、ロシア軍の工作員が侵入しているのを発見し、殺害したなどと明らかにしました。工作員は、ウクライナ軍の制服を着て偽装していたとしています。この地区では、他にもロシア軍の工作員と疑われる人物を目撃したといった情報が SNS 上などで伝えられ、ロシア軍がキエフに本格的に侵攻するのを前に工作活動をしていたと見られています。

習近平国家主席とプーチン大統領 電話会談

ウクライナ情勢をめぐって、25 日午後、中国の習近平国家主席とロシアのプーチン大統領が電話で会談しました。国営の中国中央テレビによりますと、この中でプーチン大統領は今回の軍事行動に至ったロシア側の立場を説明したうえで、ウクライナ側とハイレベルの交渉を行いたいと表明したとしています。

日本時間 19:00 ごろ キエフの女性「経済制裁だけでは不十分」

首都キエフに住む女性が現地時間の 25 日正午ごろ、日本時間の 25 日午後 7 時ごろ NHK の取材に応じました。キエフでは 25 日、爆発音やウクライナ軍が避難を促すサイレンなどが散発的に聞こえ、そのたびに市民が地下鉄の駅などに身を寄せているということで、女性は「首都に攻撃があるかもしれないという情報はありましたが現実になるとは信じられませんでした」と嘆いていました。女性は「ウクライナ軍がロシア軍を撃退してくれる

と信じています」と話しつつも「欧米などの経済制裁だけでは不十分でウクライナ人だけで戦っているように思います。別の方法でも助けてほしい」と国際社会にさらなる支援を求めました。そして「国境近くに避難させている子どものことが心配です。世界の国には子どもたちだけでも受け入れてもらえるようにしてほしいです」と訴えていました。

日本時間 19:00 ごろ ロシア外相“武装解除せぬ限り交渉応じず”

ロシアのラブロフ外相は 25 日、モスクワで開かれた記者会見で「呼びかけに応じてウクライナ軍が抵抗を止め、武器を捨てれば交渉の準備はできている」と述べ、ウクライナ軍が武装解除しない限りは交渉には応じられないという姿勢を示しました。

ウクライナ大統領「命が失われるのを防ぐため交渉のテーブルに」

ウクライナのゼレンスキー大統領は、25 日にビデオで声明を発表し、「ロシアの大統領にもう 1 度、呼びかけたい。ウクライナ全土で戦闘が続いている。人々の命が失われるのを防ぐため、交渉のテーブルにつこう」と述べ、プーチン大統領に対し、話し合いを求めました。

キエフでは多くの市民が地下に避難

首都キエフでは 25 日、避難を促すサイレンが鳴り、多くの市民が地下に避難しています。人々は家族で肩を寄せ合いながら、落ち着かない様子で過ごしていました。子どもや両親とともに避難してきたという女性は「眠っていたところ、早朝にロケット弾が家の近くで撃ち落とされ、爆発音で目覚めました。外出禁止令が終わる午前 7 時まで待ってからここに来ました。夫は家に残っていますが何かあればここに来ることになっています」と緊張した表情で話していました。

キエフ在住の邦人「鉄道で国外逃げようとした知人 駅に入れず」

首都キエフ在住の中村仁さんが 25 日に NHK のインタビューにオンラインで応じました。中村さんは、キエフの中心部から車で 15 分ほど離れた住宅街に住んでいて、25 日午後 0 時半ごろ、日本時間の午後 7 時半ごろから爆発音が急に聞こえるようになったということです。中村さんは「爆発音が何度かあった。ドーンという音が何度か聞こえた。ロシアが近くまで来ているな、という感じがする」と話していました。中村さんは事態が悪化したら近くのシェルターに避難する予定だということです。また中村さんによりますと、知人が国外へ逃げようと中心部の駅へ向かったものの、大勢の人がつめかけて駅構内に入ることも難しく引き返してきたということで、現地在が混乱している様子がうかがえます。中村さんは、「隣人によると、鉄道の駅はものすごい人の数で、砲撃の光も見たと話していた。パニック状態だったようだ」と話していました。

20:30 ごろ 林外相 ウクライナ外相と電話会談

林外務大臣は、ロシア軍による軍事侵攻が続くウクライナのクレバ外相と、電話で会談しました。電話会談は、今夜 8 時半ごろから行われ、この中で林大臣は、今回のロシア軍による軍事侵攻は、ウクライナの主権と領土の一体性を侵害する国際法違反の行為で、力による一方的な現状変更の試みは容認できないとする日本の立場を説明したものとみられます。そのうえで日本としては、ウクライナやウクライナ国民に寄り添い、事態の改善に向けて G7 をはじめとした国際社会と連携して対応していく考えを伝えたものとみられます。

日本時間 21:00 ごろ 国境に近いポーランドの駅では多くの避難者

ウクライナとの国境に近いポーランド南東部のプシェミシルの駅では、ウクライナの首都キエフや西部の都市リビウとの間を結ぶ列車が運行を続けていて、ロシアによる軍事侵攻以来、多くのウクライナの人々が逃れてきています。駅の構内では、25日、ポーランド軍の兵士たちが避難してきた人たちにサンドイッチや水などをふるまっていたほか、待合室には簡易ベッドが設けられ、ウクライナ人の家族連れなどが一息ついていました。また駅には、ポーランドに留学しているウクライナからの学生など十数人が集まり、避難してきた人たちに対してボランティアで道案内をしたり、情報提供をしたりしていました。そのうちの1人で高校生のソフィア・コフトさん（18）は「私も家族や友人がウクライナにいて、誰にとってもつらい状況です。私はここに来た人たちが孤独を感じないように支えていきたいです」と話していました。

キエフではウクライナ軍とみられる兵士の姿も

ロシア軍の部隊が迫る首都キエフでは、ウクライナ軍とみられる兵士たちが慌ただしく物資を運ぶ姿などがみられました。このうち、キエフ中心部で撮影された映像では、銃を持った複数の兵士が路上を慌ただしく走ったり、物資を運んだりしている様子がうかがえます。

日本時間 23:00 ごろ IOC ロシアとベラルーシでの大会中止求める

IOCの理事会は、ロシアとベラルーシで予定されているスポーツの大会について中止するか、代替地での開催とするよう国際競技連盟に求める声明を発表しました。

また両国が去年12月、国連総会で採択されたオリンピックとパラリンピックの期間中の休戦を求める決議に違反したことを強く非難し、現状では選手の安全と安心を優先させるべきだと訴えています。

そのうえで国際大会においてロシアとベラルーシの国旗を掲げたり国歌を流したりしないよう要請するとともに来月4日に開幕する北京パラリンピックではIPC＝国際パラリンピック委員会を全面的に支援すると表明しました。またIOCとして「ウクライナの関係者と連絡を取り合って必要な人道的支援について調整している」としています。

日本時間 23:00 ごろ スキージャンプ W 杯 試合前に黙とう

北京オリンピック後、初めてとなるスキージャンプ女子ワールドカップの団体がオーストリアでヒルサイズ 90メートルのノーマルヒルで行われました。試合前にはロシアによるウクライナへの軍事侵攻を受けて、1分間、鐘が鳴らされ黙とうがささげられました。この試合日本は4位に入りました。

ロシア “空てい部隊がウクライナ軍兵士 200 人兵士殺害”と主張

ロシア国防省は、25日、国営の通信社に対して、ロシア軍の空てい部隊が首都キエフの中心部から北西におよそ20キロの軍用の飛行場を占拠し、この際の戦闘で、ウクライナ軍の特殊部隊およそ200人を殺害したと主張しました。このあと、主力部隊が飛行場で合流することでキエフの西側の拠点を築くとしています。

資料3 ウクライナ (Ukraine) 基礎データ (外務省ホームページ)

1 面積

60万3,700平方キロメートル (日本の約1.6倍)

2 人口

4,159万人 (クリミアを除く) (2021年:ウクライナ国家統計局)

3 首都

キーウ

4 民族

ウクライナ人 (77.8%)、ロシア人 (17.3%)、ベラルーシ人 (0.6%)、モルドバ人、クリミア・タタール人、ユダヤ人等 (2001年国勢調査)

5 言語

ウクライナ語 (国家語)、その他ロシア語等

6 宗教

ウクライナ正教及び東方カトリック教。その他、ローマ・カトリック教、イスラム教、ユダヤ教等。

7 略史

キーウ・ルーシの成立

1240年 モンゴル軍キーウ攻略

1340年 ポーランドの東ハリチナ地方占領

1362年 リトアニアのキーウ占領

1648年 フメリニツキーの蜂起 (ポーランドからの独立戦争)

1654年 ペレヤスラフ協定

1764年 ポルタヴァの戦い (ロシアからの独立戦争)

1853年 クリミア戦争

1914年 第一次世界大戦

1917年 ウクライナ人民共和国 (中央ラーダ政権) 成立

1917年~1921年 ウクライナ・ソビエト戦争

1922年 ソビエト社会主義共和国連邦成立

1932年 大飢饉 (ホロドモール)

1939年 第二次世界大戦

1941年 独ソ戦開始、独によるウクライナ占領

1954年 クリミアをウクライナに編入

1986年 チョルノービリ原発事故

1991年 ウクライナ独立、ソ連邦崩壊、CIS創設

1996年 憲法制定、通貨フリヴニャ導入

2004年 オレンジ革命

2013年~2014年 マイダン革命 (尊厳の革命)

1 主要産業（産業別構造比）

卸売・小売業、自動車・二輪車修理業（14.0%） 製造業（10.1%） 農業、林業、漁業（9.3%）
行政・防衛・社会保障（7.2%） 不動産業（6.4%） 運輸・倉庫業（6.3%） 情報・通信（5.0%）
鉱業・採石業（4.5%） 教育（4.3%） 専門・科学・技術的活動（3.3%）

8 主要貿易品目

- (1) 輸出・・・穀物（19.1%）、鉄・鉄鋼（15.6%）、鉱石（9.0%）、電子機器（5.2%）
- (2) 輸入・・・鉱物性燃料（14.7%）、機械類（11.2%）、輸送機器（10.1%）、電子機器（10.1%）、医薬品（4.6%）

9 主要貿易相手国

- (1) 輸出・・・中国（14%）、ポーランド（7%）、ロシア（6%）
- (2) 輸入・・・中国（15%）、ドイツ（10%）、ロシア（8%）

2022年度更新
農林水産省

ウクライナの農林水産業概況

1. 農林水産業の概要

(1) 農林水産業の概況

- 人口は、約4,425万人（2018年）。
- 「ヨーロッパの穀倉」といわれ、国土の約7割を農用地が占める。
- 西の国境付近を除き緩やかな丘陵地で、チェルノーゼムと呼ばれる肥沃な黒土が広がる。気候は温暖で、年間降水量は北西から南東に向かうにつれて減少する。
- 主要農産物は、小麦、とうもろこし、ばれいしょ、ひまわりの種、てん菜等



資料4 ロシア（Ukraine）基礎データ（外務省ホームページ）

1 面積

約 1,710 万平方キロメートル（日本の 45 倍，米国の 2 倍近く）
（参考：ソ連：約 2,240 万平方キロメートル 日本 の 60 倍）（出典：ロシア国家統計庁）

2 人口

1 億 4,680 万人（2017 年 1 月）（参考：ソ連：2 億 8,862 万 4 千人／1990 年 1 月 1 日）
（出典：ロシア国家統計庁）

3 首都

モスクワ

4 公用語

ロシア語

5 宗教

ロシア正教，イスラム教，仏教，ユダヤ教等。

6 略史

9 世紀 キエフルーシの成立
988 年 キリスト教国教化（後のロシア正教）
1207 年 モンゴル軍の侵攻。「モンゴル・タタールの軛」始まる
1472 年 モスクワ大公国のイヴァン 3 世「全ルーシの君主」と号す
1480 年 「モンゴル・タタールの軛」終わる
1712 年 ペテルブルク（現在のサンクトペテルブルク）遷都
1917 年 ロシア革命
1922 年 ソヴィエト連邦成立
1991 年 ソヴィエト連邦解体
ロシア連邦誕生（エリツィン初代大統領）
2000 年 プーチン大統領就任
2008 年 メドヴェージェフ大統領就任（プーチン首相）
2012 年 5 月 プーチン大統領就任

経済

1 主要産業・・・鉱業（石油，天然ガス，石炭，金，ダイヤモンド等），鉄鋼業，機械工業，
化学工業，繊維工業

4 貿易（2017 年）

- (1) 輸出：3,519 億ドル（燃料等鉱物製品，鉄鋼，貴金属等）
- (2) 輸入：2,285 億ドル（機械類，医薬品，衣類）
- (3) 主な貿易相手国：

- 輸出：上位から中国，オランダ，ドイツ，ベラルーシ，トルコ，イタリア
- 輸入：上位から中国，ドイツ，米国，ベラルーシ，イタリア

ロシア連邦の農林水産業概況

1. 農林水産業の概要

(1) 農林水産業の概況

- 人口は、1億4,573万人（2018年）。
- 国土の大半が亜寒帯及び寒帯に属しており、北極海沿岸にツンドラ気候、カスピ海沿岸及びモンゴル国境付近にステップ気候、黒海沿岸に温帯気候が分布。
- モスクワのある中央連邦管区の東南隣と南隣の沿ボルガ連邦管区及び南部連邦管区は、ロシアの穀物生産量の約6割を占める穀倉地帯。
- 1経営体当たりの平均経営面積は12.7haだが、経営形態によって大幅に異なる。農業組織経営（旧ソ連時代の集団農場の継承等による組織経営）では6,018ha、農民経営（独立個人農による経営）で241ha、住民経営（住民による副業的経営）0.7ha（2016年）。
- 主要農産物は、小麦・大麦等の穀物、てん菜、ばれいしょ、ひまわりの種等。
- 森林面積は国土面積の約5割で、世界の森林面積の約2割を占め世界最大。丸太生産量はアメリカに次ぐ世界第2位（輸出量世界第3位）、製材生産量は世界第4位（同2位）（生産量：2015年、輸出量：2017年）。
- 漁獲量は約503万トン（2018年）で海面漁業が約95%を占めている（太平洋方面が約7割、大西洋方面が3割）。また、漁獲量の約4割は主に冷凍輸出されている。主要魚種は、スケトウダラ、マダラ、ニシン、サケマス類、カラフトシシャモ等。



資料5

かつての「兄弟国」なぜ攻撃？ プーチン氏が離したくないウクライナ

モスクワ=中川仁樹 2022年2月24日 13時23分 朝日新聞デジタル

ウクライナをめぐる相関図



ロシアのプーチン大統領が、ウクライナ東部で特別な軍事作戦を行うことを決めた。「兄弟国」とも呼ばれる、かつてのソビエト連邦（ソ連）の仲間を、なぜロシアは攻撃しようとするのか。その背景と経緯をまとめた。

今回の侵攻の背景にあるのが、2014年2月に始まったウクライナ危機だ。

当時のヤヌコビッチ大統領は、「ロシアも欧州も」の路線を大統領選で掲げて当選したが、13年11月に欧州連合（EU）との経済連携協定を断念すると、親ロシア路線を鮮明にした。

これに反発した市民が反政権デモを始め、政権の腐敗体質への不満も重なり運動が拡大。14年2月にヤヌコビッチ氏がロシアに逃亡して政権が崩壊し、親米欧政権が誕生した。

だが、ロシアは「米欧が支援したクーデターだ」と強く反発。ソ連時代から黒海艦隊の基地があるウクライナ南部のクリミア半島をロシア軍が占領し、住民投票で意思が示されたとして一方的に併合した。

その後、ウクライナ東部でもロシア系住民が迫害されているなどとして、ロシアの支援を受けた親ロシア派の武装勢力が政府庁舎などを攻撃して占領。二つの地域が独立を宣言した。

戦闘の激化で多くの市民に被害が出たこともあり、ドイツとフランスが仲介に乗り出した。14年9月に停戦に合意したが守られず、15年2月には独仏とロシア、ウクライナの4首脳がベラルーシの首都ミンスクで長時間にわたり協議。ウクライナ東部に広範な自治がある「特別な地位」を憲法改正により認めることなどを盛り込んだ「ミンスク合意」でまとまった。

だが、ウクライナ政府は東部を武装勢力が支配したままでの憲法改正には消極的で、ミンスク合意の履行は進まなかった。

ウクライナはロシアとの交渉で事態を打開したかったが、ロシアは自らを当事者だと認めず、武装勢力と直接交渉するよう求めて折り合えなかった。

そこでウクライナのゼレンスキー大統領は、昨年からは北大西洋条約機構（NATO）への加盟を米欧首脳に訴えるなど米欧寄りの姿勢を強めることになった。

これに対し、ロシアは昨年春にもクリミア半島と南部のウクライナ国境付近に10万人規模の兵力を集め、米欧がウクライナ侵攻への懸念を強める契機となった。

昨年6月の米ロ首脳会談の実現に向けた動きの中で、いったんロシアは撤回の動きを見せた。だが、10月ごろから再び兵力を増強し、欧米が危機感を強める事態になっていた。

緊張緩和に向け、バイデン米大統領とロシアのプーチン大統領が昨年12月に電話などで2回協議したほか、今年に入っても米欧側とロシア側は様々なレベルで協議を続けてきた。

ロシアは冷戦終結後のNATOの東欧への拡大が自国への脅威になっているとして、NATOの東方拡大の停止を強く要求。納得できる回答が得られなければ、軍事力の行使に訴えることも示唆した。

これに対し、米欧は侵攻した場合は厳しい経済制裁を科す姿勢を示してロシアへの圧力を強め、ウクライナが対抗できるようミサイルなどの兵器を供給した。

ロシア側の要求を拒否する姿勢も変わらず、協議は平行線が続いていた。

歴史的な視点からも、ロシアがウクライナを自らの「勢力圏」に置きたい理由が見えてくる。

ロシア人やウクライナ人の源流と考えられているのが、10世紀にウクライナの首都キエフにできたキエフ公国だ。クリミア半島は、その大公だったウラジーミル1世が洗礼を受けてキリスト教を国教とした地であり、ロシア人にとっては「聖地」だ。

昨年7月、プーチン氏は論文「ロシア人とウクライナ人の歴史的な一体性」を発表し、その中でこう強調した。

「本当のウクライナの主権はロシアとのパートナー関係の中でのみ可能になる」

そんなウクライナがロシアから離れ、米欧寄りになることは、地政学的にも宗教的にも心情的にも耐えられないことなのかもしれない。（モスクワ＝中川仁樹）

■ ウクライナ危機以降の主な出来事

2014年3月 ロシアがクリミア半島併合

4月 親ロシア派がウクライナ東部を占拠

9月 東部の紛争で最初の停戦合意

15年2月 ウクライナ、ロシア、ドイツ、フランスの4首脳が会談、2度目の停戦合意

16年10月 4首脳会談。行程表作りに合意するも実現せず

18年5月 ロシアとクリミアとの橋開通。ウクライナ船の航行制限

11月 ロシアがウクライナ軍艦船に発砲、乗組員24人を拘束

19年4月 ウクライナ大統領選で「戦争を終わらせる」と公約したゼレンスキー氏圧勝

12月 3年ぶりの4首脳会談

21年4月 ロシア軍がクリミア、ウクライナ国境に兵力増強。主要7カ国外相が懸念表明

6月 バイデン米政権下で初の米ロ首脳会談

クリミア沖航行の英艦船にロシア軍が警告射撃

9月 ウクライナ米首脳会談

10月 ロシア軍が再びクリミア、ウクライナ国境で兵力増強

12月 米ロ首脳がテレビ電話で協議

22年2月 仏ロ首脳会談、ロシア軍がベラルーシで同国軍と合同軍事演習

■ 冷戦後の NATO 拡大とウクライナを巡る経緯

1989年12月 米ソ首脳が「冷戦終結」宣言

(同年～91年、東欧からソ連軍が順次撤退開始)

90年10月 ドイツ統一

91年7月 東側のワルシャワ条約機構解散

12月 ソ連崩壊

94年8月 旧東ドイツからロシア軍撤退式典

97年5月 NATOロシア基本文書「互いを敵と見なさない」

99年3月 ポーランドなど東欧3国加盟

2002年5月 NATOロシア理事会設立

モスクワに NATO 軍事代表部

04年3月 バルト3国など7カ国加盟

08年4月 NATO首脳会議、ウクライナとジョージアを「将来の加盟国」に

08年8月 ロシアがジョージアに軍事介入

09年4月 クロアチア、アルバニア加盟

14年3月 ロシアがクリミア半島併合

4月 親ロシア派がウクライナ東部を占拠

16年10月 ウクライナ、ロシア、ドイツ、フランスの4首脳が会談。停戦合意履行の行程表作りに合意するも実現せず

17年6月 モンテネグロ加盟

18年11月 ロシアがクリミア半島付近でウクライナ軍艦船に発砲、乗組員24人を拘束

19年4月 ウクライナ大統領選で「戦争を終わらせる」と公約したゼレンスキー氏圧勝

20年3月 北マケドニアが加盟し、加盟30カ国に

21年6月 バイデン米政権下で初の米ロ首脳会談

21年10月 ウクライナ国境のロシア軍が10万人規模に増強

21年11月 ロシアがNATO代表部を閉鎖

21年12月 ロシアのプーチン大統領がNATO拡大停止を要求。バイデン氏とオンライン会談
ロシアが米、NATOに「条約」案

22年1月 米ロ代表団が協議、NATOロシア理事会開催

・「本時のキーワード」・・・

	1	2
3	4	5

2-4. 「国際紛争と難民問題」(つづき1) 教科書 pp.100-104

★1★ 資料1について、あなたはどのように感じましたか、共感の度合いと理由を教えてください。

共感の度合い 5 4 3 2 1

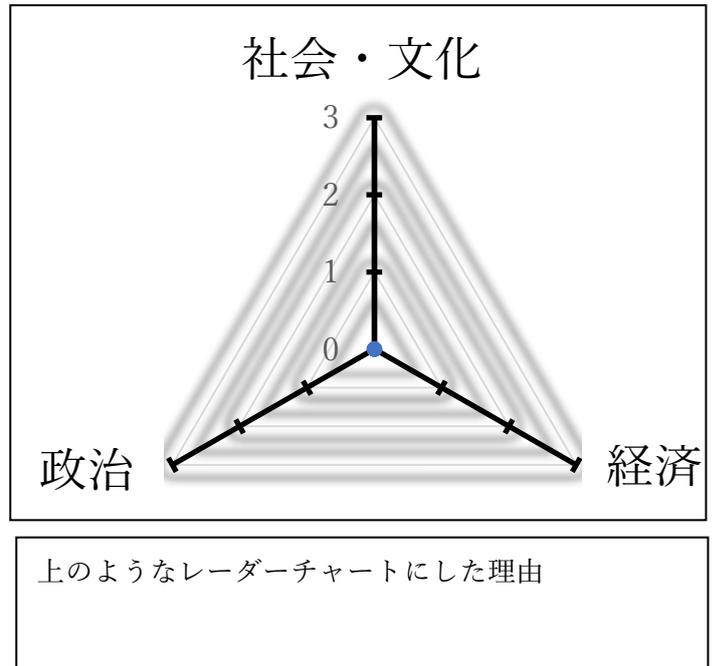
理由

★2★ 資料2～5について、自分の班で特に注目する資料の内容を見ながら、ウクライナ問題が起こった要因と考える部分に印をつけ、どんな内容か、ワークシートに簡単に書き出しておきましょう。

要因と考えられる内容

★3★ 各班の発表を聞きながら、メモをとりましょう。

★4★ ウクライナ問題の要因をレーダーチャートにしてみよう。



★5★ 今日の活動を踏まえて、資料1を読み直したとき、どのように感じるようになりましたか。

共感の度合い 5 4 3 2 1

理由

★6★ どうすればウクライナ問題を解決の方向へ導くことができるか、自分なりのアイデアを100字以上の文章にしてみましょう。>>>11月30日(水)の朝までに回答です

(下書きは裏面を使いましょう。清書はGoogleフォームに入力して送信してください)

高2・政治経済 ハイブリッド授業

RL⑭ (Real & Remote Learning)

授業開始まで
お待ちください(11/28)

キョウミ
(情報に近づく)

すべての歴史は主観的になる。言い換えれば、正しくは歴史は存在しない。あるのはただ伝記だけだ。

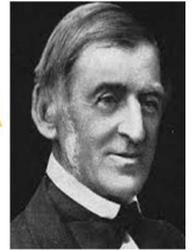


「今日の人物」

今日の人物チェック

エマーソン

すべての歴史は主観的になる。言い換えれば、正しくは歴史は存在しない。あるのはただ伝記だけだ。



今日の人物は、アメリカの思想家・哲学者・作家・詩人として知られています。「無教会主義」を先駆的に主張した人物でもあります。彼の講演『アメリカの学者』は、「アメリカにおける知的独立宣言」と呼ばれることもあります。

【RL⑭】：教p.100～ No.26】

アユミ(前後関係) シクミ(因果関係)
ギンミ(共通/相違)

●本時の「めあて」

ウクライナ問題を「多面的」に分析しよう

●本時の「キーワード」

・NATO

・クリミア半島

・スラヴ民族

・チェルノーゼム

・原子力発電所

イミ(定義)

プリントの
めあてとキーワードの
ところに記入してください

【みんなのキーワード】

「EU加盟」「ジェノサイド」
「ヘルソン州奪還」「非人道的兵器」
「義勇兵」「首都キーウ(キエフ)」
「NATO(北大西洋条約機構)」
「安全保障理事会」「難民受け入れ」
「インフラ攻撃」「エネルギー価格」
「医療崩壊」「2月24日」「動員」
「ミサイル」「食糧危機」「核兵器」
「小麦粉」「とうもろこし」